

芳野副院長

1月5日から1月11日にかけて三重県 DPAT 先遣隊第一班として能登半島地震の支援活動を行いました。珠洲市の支援に向かいましたが、能登半島の主要な道路は損壊しており、辿り着くのも困難でした。珠洲市内は断水が続き、家屋の被害はひどく、沿岸部は津波の痕が生々しく残っていました。現地の精神科医療として、通院患者さんの内服薬切れ、突然始まった避難所生活によるストレス、環境変化に弱い認知症などの患者さんの症状悪化が懸念されていました。公的機関や医療機関にて統率や支援にまわる現地の方々の心的疲弊も目立ちました。能登半島同様に災害により南北の交通が寸断される可能性の高い三重県の精神科における独自の災害対策に今回の体験を生かし、個々の患者さんに自身の身を守るためのアドバイスをしていきたいです。

石原看護師

DPAT（災害派遣精神医療チーム）先遣隊の一員として、1月5日から11日までの7日間、石川県に入り災害派遣活動を行いました。主に珠洲市での活動を行いました。当時は被災地の情報がほとんどない状況で、道のりはとても険しく、市の中心部は電気が使用できなかったものの、市内全域で断水を認め、被災者・支援者共に過酷な環境でした。その中、我々の役割としては、被災地域における精神医療の機能の補完や、避難所生活を余儀なくされた精神疾患患者の病状把握、多岐に渡る災害ストレスによって精神問題を抱える住民への支援を行うことでした。その活動の一部として、災害ストレスによって生じやすい『不眠の問題』『認知症の問題』『飲酒の問題』についてリーフレットを作成し、避難所訪問の度に配布し、啓発活動を行いました。

私自身にとって初めての派遣活動であり、至らぬ点もありましたが、同隊員に支えられながら職務を全うでき、改めてチーム医療の大切さが理解出来た貴重な経験となりました。これからも研鑽を積み、DPAT先遣隊として活躍出来るように努力していきたいです。

三好作業療法士

作業療法士の三好です。業務調整員として石川県で活動させていただきました。その中で災害に備えて準備しておくいいことを伝えたいと思います。まずは自身の勤務地や自宅周辺の被害想定の確認です。地震以外の災害の可能性もあり、国土交通省の「重ねるハザードマップ」の活用が情報収集に役立ちます。また、人数に応じた非常持ち出し袋の準備です。中身は性別や年齢で調整が必要ですが、優先すべきは持ち出せるサイズであることです。命を守る行動を最優先してください。